

平成 23 年度 第 1 回栄養学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I 日 時： 平成 23 年 8 月 8 日（月） 18 時 30～

II 場 所： 私立大学情報教育協会 事務局会議室

出席委員： 武藤 志真子(委員長)、井上 節子、市丸 雄平、酒井 映子、
石崎 由美子、中川 靖枝

欠席委員： 高橋 啓子、室伏 誠、

事務局： 井端 正臣(事務局長)、森下 幸平、松本 忍

III 検討事項

1. 本日の記録担当選出（委員長の指名による）

1)配布資料

(1)委員会名簿：小野坂 敏見委員は、本年度より学事多事のため辞退(委員長による)。

(2)法人事務局：平成 23 年度事業計画、事業報告

(3)①栄養学教育における学士力の考察

②学士力の実現を目指す ICT 活用授業の開発モデルの例示(メモ)

③1. 2. 栄養学教育における教育改善モデル(中間まとめ案 1. 2)

④参考 1 教育を変えるとき、2.3. 国際関係学(中間まとめ案 1.2)、4.5. 英語教育(中間まとめ案 1.2)、6. 分野別の教育改善モデルの中間とりまとめについて(お願い)

⑤追加資料 ICT 活用… ご意見をお聞かせください(英語の例)

2)配布資料(2)、(3)について事務局より説明された概要。

教育改善モデルは現状(現時点)の課題解決ではなく、5 年先を目途に国際的視点からも質の高いガイドライン(スタイル)として提案が可能であることを目指している。授業計画は単なるシラバスではなく、到達目標の能力の評価は特定年次に拘らず、4 年間の在学を通した卒業時点で達成できていることを狙いとする。

2. 学士力実現に必要な ICT 活用の授業モデル案のまとめ

上記 2)の概要を踏まえて、③—1、③—2 の文案を検討した。

③—1: 到達目標 3 の案については、2. 授業デザインの 2.1 授業のねらいと 2.2 授業計画の説明文の内容を詳細に検討した。2.1 授業のねらいでは、栄養学教育に関するやや冗長文章を簡潔にし、食環境作りの“ねらい”を明確にした。2.2 授業計画では、専門基礎分野と専門分野の科目を横断的に統合する文案に、構成しなおした(酒井委員途中退席)。

③—2 到達目標 5 の案については、2. 授業デザインの 2.1 授業のねらいが前回①から⑤と箇条書きであった修正文が提示された。栄養マネジメントの 5 年後のスタイルを考案するという視点では、“ねらい”に斬新性がない。たとえば、栄養ケアプランをコンテスト形式

にし、グループ間・大学間で学生の気づきを促すことや、社会(外部から)ICTによる示唆を受けるなどが落としどころではないかという指摘がなされた。

また、2.3ICTを用いたシナリオは①から⑩までが細かすぎるので、流れを大きく提示し、ポートフォリオ検討会の導入など、修正の必要があるのではないかと指摘された。

3. 今後のスケジュールについて

今週中に追加資料⑤のようなアンケートを実施し、9月に向けてまとめる。

4. その他

・次回の委員会開催日…9月17日13:30 関西方面 の予定